

第1学年 生活科 学習活動案

日時 令和7年 11 月 21 日(金)

5校時

桜町小学校

対象		授業者
第1学年1組	33名	若 林 敬 子
第1学年2組	33名	満 留 ふ み な
第1学年3組	32名	田 村 秀 平
第1学年4組	32名	赤 石 み く
第1学年5組	31名	小 林 優 太

1 単元名:「もっと！もっと！モルモット！」

2 単元を通して子どもたちが学ぶであろうことから

モルモットの世話を通してその体温に触れたり、心臓の音を聞いたりしながら、生命の尊さを感じ、モルモットの生活環境やモルモットに合った世話の仕方があることに気付く、モルモットのことを考えて自分たちには何ができるだろうかと試行錯誤し、みんなと楽しみながらものづくりをしたり、遊びを考えたりするとともに、モルモットに親しみをもち、すすんで生き物を大切にすることができるようになる。

3 育つと考えられる資質・能力及び評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
動物を飼う活動を通して、それらは生命をもっていることや成長していることに気付いている。	動物を飼う活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	動物を飼う活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。
①モルモットの特徴や特性について理解し、適切な方法で世話をしている。 ②モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、モルモットに合う世話の仕方があることに気付いている。 ③モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。	①各グループが目的をもって活動を行うことから、課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立った関わり方を見直したりしながら、世話をしている。 ③収集した情報を、取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。 ④モルモットとの関わりを振り返りながら、世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を表現している。	①元気に育てたい、仲良くなりたいという思いや願いをもって、モルモットに関わる探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ②モルモットのために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。 ③課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、モルモットが過ごしやすい環境を作るためにできることを積極的に考え、粘り強く取り組もうとしている。 ④モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

4 単元の価値・児童に期待したい学び

※単元計画・研究の手立てに同様の内容を記載。

5 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1)必然性のある材

今年度は、4月に2年生と一緒に学校探検を行った。その際に、児童たちは職員室前の廊下にウサギが2羽いることを知り、触りたい、餌を食べさせたいという思いをもった。校庭で外遊びができない日は、ウサギの前に集まり、飼育委員と一緒にウサギの世話をする児童も多く見られた。こうした児童の行動から、その思いが学びにつながると考え、生活科「いきものとなかよし」の単元でモルモットをレンタルし、世話をすることを決めた。

モルモットの世話をすることで、肌の温もりや心臓の鼓動などから生命を大切にしたいという思いや一生懸命生きている命の尊さに気付けると考えた。またイヌやネコほどではないが、毎日のエサや健康・環境管理など手間がかかる部分もあり、1年生の学習に適していると考えた。

(2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

教員も児童と同じ視点で、モルモットの育て方を調べ、実際に世話をしている人から話を聞いたり、モルモットがいる「町田リス園」や「碑文谷公園 こども動物広場」に行ったりした。世話をするにあたり、気を付けなければならないことや健康管理などの話を聞き、より良い環境ができるような手立てを考えている。子どもたちと一緒に世話をすることで、教師自身もモルモットの可愛さや世話の面白さを再発見していくだろう。

また、子どもたちはモルモットと様々な関わり方をしたいと思うだろうと予測した。アイデアが出た時には、時間や材料・道具など実現可能かを見極めるために、実際に活動している様子が想像できるかどうかを考えるように促すなどの支援をしている。安全面や道具の準備、時間配分など児童では難しい環境を整え、どの児童も活動に参加できるようにしていきたい。

○探究的な学びに向かうための手立て(水色のカード)

※『カリキュラムマネジメント表』及び『7「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス』参照

○協働的な課題解決に向かうための手立て(黄色のカード)

一人ひとりが思いや願いをもって関わる協働の場をつくる

グループ活動においての相談や共同作業を通して、児童一人ひとりが自分の思いや願いを表現し、友達と活動を進めることが求められる。そのため、教師は全体の進捗状況を把握し、適切な声掛けを行っていく。友達の意見や考えを取り入れて試行錯誤をしていくなかで、探究がより深まっていくと考えられる。モルモットのために何ができるかを考え、工程によって作業を分担し、一つのものを完成させることで協働の場が作られていくのではないかと考える。

6 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される子どもの姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	・グループ内の子ども同士で、目標に向けての相談をしている。 ・目標に向かって、作業を分担している。 ・動物飼育員への質問を積極的にしている。 ・他グループと情報共有している。 ・グループ毎の良い点を他グループに発信している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	・材料や作り方等を自分で決定している。 ・モルモットの魅力発信に意欲的になっている。 ・動物飼育員への質問等を積極的にしている。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	・課題や活動結果から、何を目標にすべきか考えている。 ・得た情報から、具体的な取り組みを考えている。 ・動物飼育員から聞いた話を適切にまとめている。 ・モルモットの魅力発信の計画を具体的に立てている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	・グループ活動で自分の役割を見付けている。 ・グループでの探究活動が、将来に役立つと理解している。 ・外部からのアドバイスを受け、改善策を考えている。 ・命を育てる尊さを知り、自己の生き方に結び付けて考えている。

7 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通した授業改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される子どもの姿
1	課題を見出し、把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・モルモットのために、何をすべきか考えている。 ・モルモットの世話に対して様々なアドバイスをもらい、今後何をすべきか考えている。 ・相手が何を求めているかを知り、何をすべきか考えている。 ・モルモットの魅力を広めるために、何をすべきか考えている。
2	課題解決の方法を考えている	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し試作することで、よりよい物を作り上げることを目指す。 ・動物飼育員さんの話を聞き、自分たちの活動に生かす。 ・どんな方法で紹介すれば自分たちが作った物の魅力が伝わるか考えている。
3	協働して学んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えた物を、意見を交わしながら試行錯誤して作っている。 ・動物飼育員さんが協力してくれるありがたみを感じながら作り上げている。 ・自分たちが作りたい物を様々なやり方を試し、協力して作り上げている。 ・作った物の魅力を伝えるための方法を協力して考え、発信ツールを作成している。
4	学びを振り返り、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・試作した後、今後どのように学習を進めていくか考える。 ・成功や失敗を記録し、さらによくする方法を考える。 ・動物飼育員に話を聞いた後、その情報をどのように活用するか考える。 ・この経験を、今後どのように生かしていくか考える。

8 単元について(単元計画・評価の観点)

※別紙参照

9 本時の展開

※別紙本時案参照